

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

○2月15日（水）15：50～16：50 場所：校長室

出席者 協議委員：山下 中上 廣野 中尾 森和

事務局：浅田 高田 中田 荒木

次 第

1 校長挨拶

- 校長として3年めであり、改革を進めているところである。本日は忌憚なきご意見をいただき、今後の運営に生かしていきたい。

2 協議事項

(1) 令和5年度経営報告と令和6年度経営計画について

- 令和5年度経営報告として、現時点での結果数値を掲載している。授業評価アンケートにおける項目「授業理解度」が1、3年生と比べて2年生が低い数値となっている。学校教育自己診断の結果においても、同様の傾向が見られることから2年生全体として、求めているものが高いのではと考えている。また、この診断結果の「意見反映」の数値について、文化祭時に一般来校者も受け入れることから生徒の服装に一定の制限をかけたことが影響して減少しているのではないかと考えている。

令和6年度経営計画における令和5年度からの主な変更点の一つとして、英検を TOEFL Junior に変更している。英検2級の取得者の英語力には大きな散らばりがあり正確な英語力の指標としては不十分であると考えている。TOEFL Junior を1、2年生で2回受験させることで英語力の伸長指標として活用しようと考えている。

また、生野ベーシックテストという名称で、基礎学習の定着を図る取組みを令和5年度から行った。今回は目標得点率を80%に設定し、満たない生徒は再テストを何度も課し、基礎学習の定着を図った。令和6年度はさらにこれを意識した授業を行うことで1、2年生の学習の取りこぼしをなくし、3年生の学習をより一層効果的なものにしたいと考えている。

さらに、土曜学習会という名称で、土曜日に登校させ学習習慣を身に付けさせたいと考えている。1年生の10月の面談週間時に面談者以外に自習の指示を出したところ、何をすればよいかわからない生徒が続出していた。その現場で「今日の授業の問題は全部解けたか？解けなかった問題を勉強したら？」と問いかけると、「ああそうか。」と動き出す様子も見られた。自学自習については、いわゆる上位層は問題なく行えるが、ボリュームゾーンの生徒については一定の指導が必要であると考えている。

教員の働き方に関しては、80 時間を超える職員が減少していることや、ストレスチェックの数値が減少していることから、全体的には気持ちよく働いておられる先生方が増えたのかと喜ばしく思っている。

- SSH や探究の取組みで進路について考えさせることを評価指標として設定されることからとても良いことだと思う。学習はできない所ができるようになるまで反復練習することが大切であり、ベーシックテストの取組みは非常に期待できる。
- 文化祭の楽しさは生徒自ら作るものであり、満足度も自分で高められるような行事にできればなお良いと思う。自学学習については、松原市の生徒を見ても自走できる状況になく、同様に課題意識を持っているので、今後は取組みとしての成果を検証していただきたい。
- 英検については準1級であれば取得をめざすことも意義があるのではないかと。学習については、日頃から疑問を持つことが大切で、疑問について思考することが学習につながると思う。
- 学習の動機付けの一つとして必要性がある。英語については必要性を感じないことも大きい。社会人になれば英語を話す必要が出てくることもあるが、それが高校生には伝わりにくい。必要性の押し付けは意欲を低下させることもあるので、指導の際は留意する必要がある。また、英語を話すためには、間違っても良いといった考えも大切である。正確に話そうとすればするほどプレッシャーを感じて上手く話せないといったこともあるので、生徒にはスモールステップを上手く設定し、「間違ってもよい」という雰囲気の中、できたら褒めることで肯定感を持たせることが大切なのではないか。

(2) 学校教育自己診断結果について

- さきほどお話しした2年生の数値の低さや意見反映以外にも、教育相談の数値に注目していただきたい。教育相談委員会は令和4年度より組織改編し、学年の情報管理職を含めて関係教員にすぐに伝わる体制を整えている。いじめ対応についても、訴えがあれば即座に対応している。このことから、生徒・保護者の数値はいずれも上昇していると考えられるが、教員の教育相談の数値は減少している。この理由については現段階では不明だが、今後も担任一人での対応ではなく組織的な対応を行いたい。
- いじめ対応も含めて、生徒・保護者とも数値上昇があるが具体的にはどのような取組みがあるか。
- 具体的な対応はケースバイケースであるが、校長として数多くのケースをこれまで本校以外でも経験していることも大きな強みになっている。
- いじめについては初期対応を間違えないことが大切である。学校関係者以外の視点から学校

対応について常に検証しながら進めていただきたい。

(3) 第2回授業アンケート結果について

- 2年生の数値の低さは先ほどもお話したとおりであるが、全体的には、肯定評価4が最大であるところ、学校平均が3.5を超えている。授業の満足度は非常に高い。しかし、疑問を持ちその解決を図るよう思考する力を高められているかと言えば、まだまだ授業改善は必要である。探究の発表会では質問がとぎれないほど出るようになってきたことは良い傾向である。

(4) GLHS 合同事業等に関して

- 先日、GLHS 合同発表会を見学してきたが、他校に比べて文系探究はまだこれからという印象を受けた。次年度のSSHの取組みとも関連するが、これからこの文系探究も深化させていきたい。

今年度はGLHS10校での福島県への研修旅行を引率したが、10校の生徒同士の交流が互いに良い刺激となっていると感じた。今年度は、天王寺高校との合同学習会も実施したが、こういった10校間連携の取組みの意義は非常に大きい。

(5) SSH 事業に関して

- 次年度はⅢ期めの最終年となる。Ⅳ期めに向けての準備段階となることから、今の取組みよりもさらに探究活動を充実させたい。また、卒業生の活躍状況を把握する必要があり、調査方法について検討している。

→ 卒業生を活用した取組みも含めて検討していただき、Ⅳ期の認可についても期待している。

(6) その他

- 今年度盗難が数件発生したが、教育支援協議会の支援のおかげで防犯カメラを設置することができた。非常に感謝している。

3 事務連絡

- これまでいただいたご意見を参考に今後も取り組んでいきたい。会長さまにおかれては、任期満了まで務めていただき大変ありがたく思っている。

資 料

- 1 学校経営報告 R5 学校経営計画 R6

- 2 学校教育自己診断（保護者・生徒・教員）
- 3 第2回授業アンケート結果
- 4 GLHS 合同発表会冊子
- 5 SSH 成果発表会冊子